

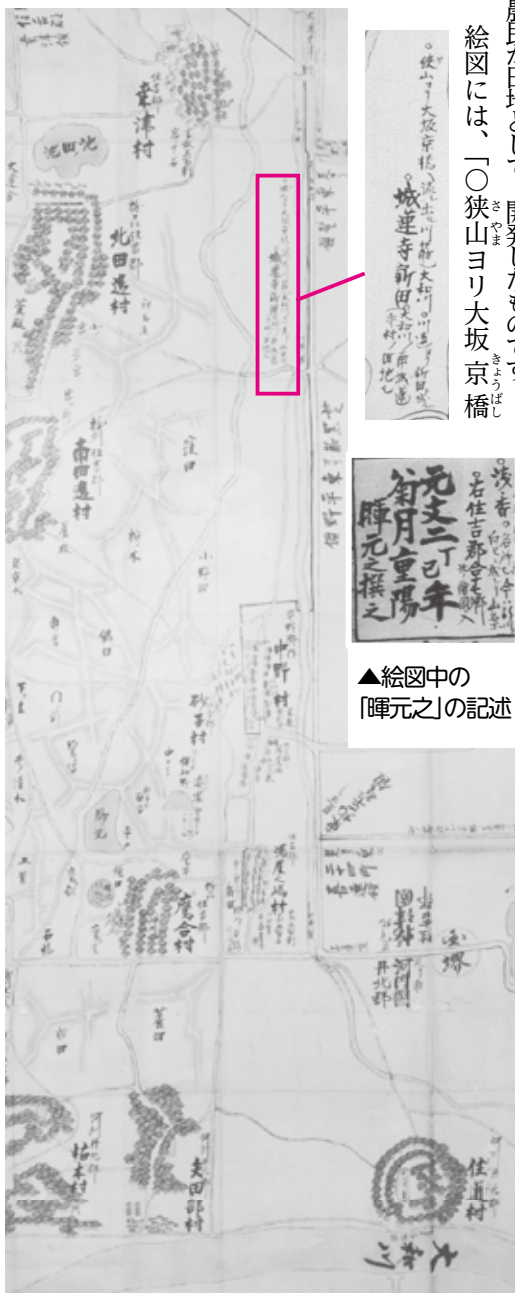
大阪市東住吉区の中の城連寺村

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)

大和川の付け替えで開発された城連寺新田(富田新田)の絵図

先頃、大阪の地域史を研究されている梅本雄三さんから、江戸時代の現大阪市域を描く絵図類の写しを寄贈いただきました。元文二年(一七三七)の『摂津国東生郡・西成郡・住吉郡道法り行程』、宝暦三年(一七五三)の『摂津国難波古地図』、同年の『摂州住吉・東生・西成三郡地図』、宝暦四年(一七五四)の『摂津国住吉郡机全郷内平野郷町地図』などです。

その内、「元文二年」図は暉元之の撰とあり、梅本さんによると、元之とは地誌学の森幸安の別名とのこと(下杉和央「森幸安作成の地誌と京都経緯」より)。図中に「城連寺新田」の記述が見い出されました。「城連寺新田」とは、本市北部の天美北、江戸時代の丹北郡城連寺村の農民が田地として、開発したものです。絵図には、「○狭山ヨリ大坂京橋



▲絵図中の「暉元之」の記述

▲元文2年(1737)に描かれた「城連寺新田」(富田新田) - 赤印一周辺図

へ流れ出ル川筋也 大和川 川違ニヨリ新田ト成ル ○城連寺新田 ○大和川ノ南城連寺村ノ田地也」とあります。宝永元年(一七〇四)、大坂城方面に流れていた大和川が柏原から松原・堺方面に付け替えられました。このため、城連寺村の六割以上が新川筋の川床となりました。その結果、耕作地の減少はいままでもなく、人口も減っていました。寛保三年(一七四三)の『村方盛衰帳』には、八十軒余あった家屋敷は、四十軒余になったと記されています。同時に狭山池から北流していた西除川が新川にさえぎられて流路を絶たれたのです。そこで、耕作地を無くした城連寺村の農民に、代替地が与えられました。その代表が、絵図にある旧西除川筋や井路川としての今川筋の川床につくられた田地です。いわゆる城連寺新田です。宝永

四年(一七〇七)に完成し、延べ人数九〇〇〇人が動員されました。新田の範囲は、「是(芝黒筋)ヨリ東平野領」の西を東限として、北に摂州・住吉郡桑津村、西に住吉郡北田辺村や住吉郡南田辺村、南に平野郷内中野村、住吉郡砂子村(現西今川・針中野など)、住吉郡湯屋之嶋村(現湯里)、住吉郡鷹合村と記し、摂津国住吉郡の村名が見られます。南に下ると、河州丹北郡住道村、丹北郡矢田部村、丹北郡枯木村とあり、河内国丹北郡の村名が描かれています。現在の大阪市東住吉区の地域です。近鉄南大阪線の北田辺駅の北東、桑津四丁目の五輪橋を南へ下った大和川までの摂津から河内に及ぶ細長い地域です。江戸時代、城連寺村を記した絵図や『明細帳』にも、新田が見られま

す。しかし、城連寺新田ではなく、富田新田と書かれています。これは、城連寺・矢田部・住道村などは、古く富田庄とよばれていたからです。寛保三年六月の『明細帳』に「御代地は南北三五二五間、東西平均十二間。是は大和川違、潰地の節、御用地に召上げ、御代地に狭山西除川筋并今川筋にて下され、此領二一六〇間、摂州住吉郡富田新田と申す」とあります。河内国分は南北約六三〇〇m、摂津国分が三九〇〇mで、旧西除川川幅の東西は平均二十二mを測ります。しかし、旧西除川は天井川で、廻りの田畑よりやや高く、その上、砂地であったので耕作に適しませんでした。また、城連寺村から住吉郡の各村まで遠いことから通作上、不便でした。このため、時代とともに城連寺の人々は、摂津国の新田を手放していきました。

もつとも、大和川の川床となり家を失った枯木村の人々は、新川に接する富田新田に移住しました。現在、浄土真宗本願寺派の光明寺(矢田六丁目)が建っている周辺です。大阪市に合併される前は、中河内郡天田村大字富田とよんでいました。『明細帳』には城連寺村領として富田新田の家屋敷・田畑や光明寺が記述されています。『元文二年』図で元之が、富田新田ではなく、城連寺新田と記したのは、摂津国の各村が富田ではないからと思われれます。領地の城連寺の村名を使っていることを確認した絵図となりました。